

UNFPA 事務局次長 和気氏との面談概要

日時：2002年3月8日 13:30-14:15

場所：UNFPA 事務局次長室

面談者： 目黒、橋本

1. UNFPA の活動例 (配布英文資料参考)

- ・ 今回 900 万ドル集めた(450 万ドルの目標で NY の 20 カ国の代表部に要請。イタリアが 250 万ドル、日本はゼロ) UNFPA としては、目に見える成果を出す必要がある。
- ・ 施設出産の割合が低いので、レフェラルシステム(自宅出産で危険な状況になった時などへの対応)の整備、赤十字とスウェーデン委員会が施設出産の整備を進めている。
- ・ Reproductive Health の調整役として女性省、厚生省、教育省のてこ入れ、厚生省、女性省に対して project formulation などの援助をすることになっている。
- ・ UNFPA カントリーサポートチーム(南アジア担当：ネパールに事務所)から 2 名現地入り。
- ・ 現地 NGO や国際 NGO と連携して活動している。
- ・ 緊急支援としてチャーター機で医薬品や役所のセットアップに必要な機材も運んでいる。

長期的活動の例

- ・ UNFPA は厚生省のフォーカルポイントである立場を生かした活動
- ・ データの作成、統計、社会統計、女性調査員の訓練、ソフトの援助(日本政府が expertise を持っている)。
 - ・ 小学校の教育にジェンダーバイアスが入らないように life skill education をする。
 - ・ 地方省 (Ministry of Local Government) と連携して青年団などに Reproductive Health などの普及、女性の経済活動を側面から支援。
 - ・ WHO、UNICEF などと連携して機能識字もふくめた訓練

2. 支援にあたって注意すべき点

- ①良い文化や伝統は残す。(ソ連の侵攻で、ソ連は女性の解放するとともにそれまでの文化や伝統を壊し、解放政策にのった女性たちはしっぺ返しをうけた。押し付けがましいやり方でなく、よい文化や伝統を生かした上で、income generation などで女性たちをエンパワーすることが必要。日本に対してはアフガニスタンの人たちは好意的。)
- ②すべての援助が政治に繋がる
特定の地域だけを支援せず、安全面などで可能な限り全国に展開する。支援物資もイスラマバードからだけ出なく、イランや中央アジアから送る。
- ③現地の人に出きるだけ雇って、外国人が入りこまない。
- ④2 国間援助のジェンダー評価が必要

3. 提案

- ①支援をモニターするジェンダーフレームワークを作る。
- ②emerging issue が即座に分かるような仕組み
- ③他の機関や国がどういう支援をしているか分かるような専門的な現地スタッフを置く必要。イスラマバードから出かけていくだけでは不十分

(文責 橋本ヒロ子)